

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:32-35.

後期高齢者が経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を受けるにあつての意思決定に関わる要因

高羽 沙也乃, 菅谷 友衣子, 佐久間 莉花

## 「後期高齢者が経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を受けるにあたっての意思決定に関わる要因」

旭川医科大学病院 9階西ナーステーション

○高羽沙也乃 菅谷友衣子 佐久間莉花

### 【目的】

後期高齢者が経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)を受けるという意思決定に影響を及ぼした要因を明確にし、治療の意思や意向の尊重、主体的な医療参加、今後の生活を見据えた自己決定、対象が望む生を全うすることにつながる看護支援を検討する。

### 【方法】

2017年9月以降にA病院でTAVIを受けた患者を対象に半構造化面接を実施し、逐語録の内容を質的に分析した。本研究の趣旨、研究への参加は自由意思であり、研究への参加によって不利益や負担が生じないこと、個人が特定されないよう匿名化をはかることを説明した上で研究の同意を得た。また所属施設の倫理委員会の承認を得た。そして、心身の負担を考慮し、対象は合併症なく退院された患者とし面接時間は20分程度とした。

### 【結果】

135のコード、46のサブカテゴリからTAVIを受けるにあたっての意思決定の要因はI.疾患・治療に理解があることII .任せられることができることIII.治療への恐怖が少ないことIV.生きることへの期待や希望があることV.家族の気持ちを大事にしたいVI.決断を先延ばしにしたいVII.治療を受けられることが幸運であるの7つが明らかになった。

### 【考察】

高齢者は治療や疾患について正確な理解がなくても、本人なりに理解することで納得して治療参加しており、患者自身がどのように納得しているかの把握が重要である。また、重要他者に決定を委ねる価値観の中で、重要他者から心理社会的に支持されることが意思決定に影響しているため、医療者や家族と患者間で大きなずれがないよう支援が必要である。高齢者は老いと死を受容から不安が少なく、人生への満足観から新規の治療に対しても幸運であるという考えに至っていた。また、自身の役割の遂行や趣味の継続が生きがいや自分らしさ、人生に期待や希望となっていた。そのため、発達課題達成への支援や価値観の強化や支持、生きがいの把握が必要であり、時代背景に合わせた支援が重要である。

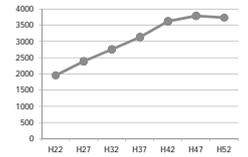
「後期高齢者が経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）を受けるにあたっての意思決定に関わる要因」

旭川医科大学病院看護部  
9階西ナーステーション  
高羽沙也乃  
菅谷友衣子  
佐久間莉花

研究の背景

●超高齢化社会

75歳以上将来患者数推移



(厚生労働省 平成20年患者調査  
将来別患者数推移)

●TAVIの開始

- ▶2013年：保険償還
- ▶2016年：当院で開始

表1)全国のTAVI施術件数

年度	2014	2015	2016
TAVI件数	135	855	1,614

(日本循環器学会:循環器疾患診療実態調査  
報告書2016年度実施・公表)

研究目的

後期高齢者がTAVIを受けるにあたっての意思決定に影響を及ぼした要因を明確すること。  
また、以下の看護支援について検討する。

- ① 患者自身の治療の意思や意向が尊重される支援
- ② 患者自身が主体的に医療に参加するための支援
- ③ 今後の生活を見据え、対象が望む生を全うするための自己決定の支援

研究方法

《研究対象》

TAVI後の合併症なく退院した後期高齢患者10名（男女比3:7）  
認知症の診断なし ニーチャム錯乱混乱スケール（認知面13点以上）

《研究デザイン》

質的記述的研究（半構造化面接）

《データの収集方法》

インタビューガイドをもとに面接を行い逐語録を作成

《データの分析方法》

- 1.意思決定の要因を内容の共通性と相違性を比較しコード化
- 2.共通の意味を持つコードを集めてサブカテゴリーを抽出

結果①

	年齢	性別	同居家族	手術経験の有無	治療前の自覚症状	合併症の理解
A氏	90代	女	長男夫婦、孫夫	皮膚科	労作時の息切れ	わからない
B氏	80代	男	内縁の妻	脳外科	歩行時の息切れ	記憶にない
C氏	70代	男	妻	泌尿器科	呼吸困難感	記憶にない
D氏	90代	女	長男	消化器科、婦人科 整形外科	倦怠感、呼吸困難	説明を受けたことは覚えていて 家族が聞いているから大丈夫
E氏	90代	女	無し	消化器科、婦人科	呼吸困難感、浮腫、胸水	家族がわかっているから大丈夫
F氏	90代	女	次男夫婦	消化器科、婦人科 眼科	浮腫、胸水 倦怠感、息切れ	理解しており自分でも調べた
G氏	80代	女	無し	整形外科、泌尿器科、消化器科	労作時の息切れ	理解している
H氏	80代	女	長女	眼科	無し	家族がわかっているから大丈夫
I氏	80代	男	妻	カテーテル治療 心臓外科	倦怠感	わからない
J氏	80代	女	無し	整形外科、耳鼻科 消化器科	歩行時の倦怠感	理解している

結果②-1

カテゴリー	サブカテゴリー
I：疾患・治療に理解があること	病気を治療したい
	治療をしないと予後が悪い
	病態を理解している
	症状を自覚した
II：任せることができること	外科適応ではないという理解
	根治的治療への希望
	開胸術をしたくない
	主治医への信頼
III：治療への恐怖が少ないこと	主治医の対応が誠実だった
	医師（プロ）への絶対的信頼がある
	医師の実績への信頼
	医師に治療を勧められた
病院への信頼	病院への信頼
	死を覚悟したことがある
	寿命が近いという気持ちがある
	リスクや合併症の説明は覚えていない
過去の治療の成功体験	治療のリスクは気にならない
	事前の検査結果から大丈夫だと思った
	過去の治療の成功体験

## 結果②-2

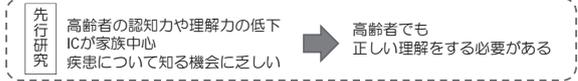
カテゴリー	サブカテゴリー
IV: 生きることへの期待や希望があること	長生きしたい 目標年齢がある 寝たきりになりたくない 健康を取り戻したい 自分の役割を継続したい 家族のために生きていたい 家族に介護負担をかけたくない 趣味を継続したい 孫やひ孫の成長がみたい
V: 家族の気持ちや大事にしたい	家族に長生きしてほしいと言われた 家族が治療に賛同してくれた 家族の意向を優先したい
VI: 決断を先延ばしにしたい	体力があるうちに治療を受けたい 病状が悪化してしまう
VII: 治療を受けられることが幸運である	元氣だから治療してもらえる 高齢でも最新の治療を受ける運に恵まれた 手術を拒否しているうちにカテーテル治療を受けられることになった

### 考察①

#### 治療に対して納得できたことによる意思決定

- AS、TAVIについての理解
  - 症状による治療の予期
- 治療の必要性・利益を受け止める

#### 理解には個人差が大きい



しかし・・・

決して正しい理解によって治療を受けることを決めているわけではない

本人なりに治療について納得できたことが意思決定に大きく影響している

### 考察②

#### 重要他者による心理社会的支援による意思決定

##### 治療方針の決定について医師が重要他者となっている

ヘルシンキ宣言  
リスボン宣言前の時代を生きてきた

医師を崇拝し従順に従うべき

専門職者を信頼し受け入れる

手術実績や対応から誠実性安全性を確認

##### 生きていく上で家族が重要他者となっている

自分の考えを押し通すことをわがままとする

家族に大事にされることで幸福感や生きる意味を見出す

社会的喪失の中で家族のサポートの上で生きている

重要他者から心理社会的に支持されることが意思決定に大きく影響している

### 考察③

#### 高齢者の特有の価値観による意思決定

Erikson Newman BM 「統合対絶望」  
「新しい役割と活動へのエネルギーの再方向づけ」  
「自分の人生の受容」「死に対する見方の発達」  
⇒人生への満足と老化による衰退や死の受容

STAIの不安尺度は老年期に最も低い

→ ①恐怖心が少ない

→ ②不安が少ない

タイミングよく新しい治療に恵まれた  
積極的治療を受ける価値があると認められた

老化によりこの機会を逃したくない

→ ③幸運である

→ ④決断は今

治療に対して恐怖心や不安が少なく楽観的に捉えられる  
高齢者特有の価値観が大きく意思決定に影響している

### 考察④

#### 生きることへの期待や希望による意思決定

生きることへの希望がある

存続する役割の遂行

健康を保ち社会参加する

今後の人生の意味

今後の人生に期待や希望をもっていることが意思決定に大きく影響している

### 示唆された看護支援

1. 高齢患者が治療を受けることによりどのように納得しているか把握すること。
2. 重要他者と患者間での治療目的に大きなずれが生じないように援助すること。
3. 生きがいの把握や発達課題の達成への支援や価値観の強化・支持を行うこと。

## 結論

1. 意思決定の要因は7つのカテゴリが明らかになった
2. 必ずしも正確に認識できていなくても、本人なりに理解することで治療に対して納得することができていた
3. 重要他者から心理社会的に支持されることが意思決定に大きく影響していた
4. 新しい治療に対して不安が少なく、幸運であると楽観的に捉えていた
5. 生きがいや自分らしさを見出すことで今後の人生に期待や希望を持っていた
6. 高齢者には発達課題と時代背景からくる価値観に合わせた支援が重要であると考えた

ご清聴ありがとうございました